



一步、前進

125名のさらなる成長を願う

三寒四温を経ながら、冬の寒さが日増しに緩んできて、日中もずいぶん過ごしやすくなってきた。体感的にも春の訪れが感じられる。明日はいよいよ卒業式である。一昨日、昨日と、多くの三年生が公立高校一般入試に挑んだ。今日の予行を挟んで卒業式を迎えるわけだが、このスケジュールはほぼ定着しているものの、何ともせわしないという感じは否めない。入試本番までは、これまでをじっくり振り返る余裕など無く、本番に向けての最後の確認や体調管理に意識を傾けて当然だろう。それにしてもせわしない。

義務教育九年間を修了することになる中学校からの卒業は、自立に向けての大きな節目になるはずだ。入試という大きな試練に直面し、それに臨んだ結果を知る前にその節目を迎えるというのは、一人ひとりの内面にフォーカスすると、本来的ではないなと感じる。もっとも、儀式というものには少なからずそういう側面はあると分かってはいるのだが……。もちろん三年生は三月三十一日までは高瀬中学校の生徒なので、そこはそれぞれが三年間を意味づけ、価値づけてもらうしかない。

さて、タイトルにある「125名」というのを見て、「え？124名では？」と思った人がいるかと思う。確かに3年1組から3年4組までの生徒を合わせると124名になる。実は、あとの1名は、夜間学級からの卒業生である。明日の夜、夜間学級でも卒業式が挙行される。今年開校した高瀬中学校夜間学級。同じ高瀬中学校にあり、目指す生徒像の中の「多様性を尊重し、互いに高め合う生徒」を具現化する意味でも、交流の道を探りたいとは考えていたが、学校生活の時間がほとんど重ならないことや、置かれている環境の違いの大きさを克服するのは容易ではなく、交流を深めるには至らなかった。しかし、いずれは自然な意識の中で、同じ時間、場所で卒業式が行われることを願っている。

125名の諸君。卒業後はそれぞれ新たな環境に身を置くことになるが、視野を広げて人としてさらに成長してくれることを願って、私の好きな言葉を贈る。フランスの小説家、マルセル・ブルーストの言葉である。「真の発見の旅とは、新しい景色を探すことではない。新しい目で見ることなのだ。」

(校長:佐藤 浩二)